

研究課題名	加齢を考慮した糸球体過剰濾過の定義づけ
研究の意義・目的	<p>肥満や糖尿病の方は腎機能障害に陥りやすいといわれています。腎機能は糸球体濾過量で評価されますが、肥満や糖尿病の方は糸球体濾過量が一時的に上昇（過剰濾過）し、結果として腎臓に負荷がかかると言われています。一方で糸球体濾過量は病気ではなくて加齢によって自然に低下していくこともしられています。</p> <p>しかし、糸球体濾過量がどの程度上昇すれば過剰濾過といえるのか定まっておらず、加齢による変化を考慮した定義もありません。</p> <p>一般的に検査の異常値は健常者の値を正常値として、正常値から外れた値を異常値としています。腎移植ドナーの方は治療の必要な病気がない健康な方が適応となっており、正確な糸球体濾過量であるイヌリンクリアランスを受けておられます。また、生活習慣病の一つである糖代謝異常の有無の検索のために 75g 糖負荷試験を保険診療で受けておられ、新たな治療の必要性がないと判断されています。</p> <p>移植ドナーの方のこれらの検査結果を用いて、加齢性変化を考慮した糸球体濾過量の正常値を決めることで、過剰濾過の定義づけをすることが可能となります。</p>
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ～ 2026 年 3 月
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2010 年 4 月～2023 年 3 月に大阪公立大学医学部附属病院の生活習慣病センター、腎臓内科、泌尿器科へ、腎移植ドナーの適応の判断のために入院された方が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせて いただく試料・情報 等の項目	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。</p> <p>診療情報：年齢、性別、身長、既往疾患、服薬、喫煙、アルコール、生活習慣歴、家族歴、</p> <p>検査データ：CBC、TP、Alb、ALP、AST、ALT、BUN、UA、糸球体濾過量(cre, cystatin, inulin)、腎血漿流量、Na、K、Cl、Ca、P、Mg、Glu、T-Cho、TG、HDL、LDL、HbA1C、GA、IRI、CPR、F-T3、F-T4、TSH、75g-OGTT、(尿) Cre、CPR、TP、Alb、UA、Na、K、CL、推定食塩摂取量、食塩感受性、推定カリウム摂取量</p>
試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科代謝内分泌病態内科学のみで行います。
本研究の 利益相反	<p>利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。</p> <p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。</p>
研究に協力を したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。

連絡先

大阪公立大学医学部附属病院腎臓内科

担当者氏名：津田 昌宏

電話番号：(06) 6645-3804

メールアドレス：naranotsudadesu@omu.ac.jp